

実務経験にある教員等による授業科目の一覧表

課程名	学科名	学年	コース	授業科目	授業時間数	実務経験にある教員による授業科目	シラバス	備考
商業実務専門課程	国際ビジネス本科	1	カレッジコース	商業簿記Ⅰ	60	○	○	
				簿記演習Ⅰ	30	○	○	
				商業簿記Ⅱ	60	○	○	
				工業簿記	60	○	○	
				企業研究Ⅰ	30	○	○	
				総時間数	240			

課程名	学科名	学年	コース	授業科目	授業時間数	実務経験にある教員による授業科目	シラバス	備考
商業実務専門課程	国際ビジネス本科	2	カレッジコース	ファイナンシャルプランニング講義	90	○	○	
				ファイナンシャルプランニング演習	90	○	○	
				小論演習	30	○	○	
				企業研究Ⅱ	30	○	○	
				コミュニティ研究	30	○	○	
				自己表現技法	30	○	○	
				総時間数	300			

## 商業実務課程 国際ビジネス本科 カレッジコース(2年制) シラバス

分類	必修	科目名	商業簿記Ⅰ	担当者	結城 将光	授業 時数	60	配当 年次	1年 後期
実務教員	○	実務教員の紹介	日商簿記検定1級合格を取得し、税理士事務所で、事業所に対して日々の帳簿作成の指導及び税務相談を行ってきた。						
卒業要件との関連									
授業の到達目標	小規模企業に必要とされる基本的な仕訳、帳簿、決算手続き等の知識の習得を行い、検定取得に向けて学習を進めることで、企業会計における簿記の基礎知識の習得を目標とする。								
授業概要	簿記に関する基礎知識をテキスト、練習問題を中心に進めていき、基本的な仕訳、帳簿、決算手続きを行えるようにする。								
授業計画及び時間外学習(時間)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 簿記の基礎 商品売買Ⅰ</li> <li>2. 商品売買Ⅱ 現金</li> <li>3. 当座預金、当座借越</li> <li>4. 小口現金 手形</li> <li>5. 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金</li> <li>6. 債権債務Ⅰ</li> <li>7. 債権債務Ⅱ</li> <li>8. 債権債務Ⅲ 消耗品の処理</li> <li>9. 貸倒れと貸倒引当金</li> <li>10. 固定資産と減価償却Ⅰ</li> <li>11. 固定資産と減価償却Ⅱ</li> <li>12. 租税公課と資本金 費用・収益の繰延べと見越し、訂正仕訳Ⅰ</li> <li>13. 費用・収益の繰延べと見越し、訂正仕訳Ⅱ</li> <li>14. 帳簿への記入</li> <li>15. 試算表Ⅰ</li> <li>16. 試算表Ⅱ</li> <li>17. 伝票と仕訳日計表</li> <li>18. 精算表と財務諸表Ⅰ</li> <li>19. 精算表と財務諸表Ⅱ</li> <li>20. 帳簿の締め切り 小テスト</li> </ol>								
テキスト	スッキリわかる 商業簿記3級 TAC出版								
評価方法及び基準	授業態度及び出席状況 70% 小テスト 30%								
資格試験	日本商工会議所主催 日商簿記検定試験 3級								
関連科目	商業簿記Ⅱ、簿記演習Ⅰ								

## 商業実務課程 国際ビジネス本科 カレッジコース(2年制) シラバス

分類	必修	科目名	簿記演習Ⅰ	担当者	結城 将光	授業 時数	30	配当 年次	1年 後期
実務教員	○	実務教員の紹介	日商簿記検定1級合格を取得し、税理士事務所で、事業所に対して日々の帳簿作成の指導及び税務相談を行ってきた。						
卒業要件との関連									
授業の到達目標	日商簿記検定3級取得を目標とする。								
授業概要	過去問題を中心に問題演習を集中して行い、各回の個別論点にて解説を随時行っていきます。また、最終的には予想問題を徹底的に行うことで合格を目指していきます。								
授業計画及び時間外学習(時間)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 過去問題演習 解説</li> <li>2. 過去問題演習 解説</li> <li>3. 過去問題演習 解説</li> <li>4. 過去問題演習 解説</li> <li>5. 過去問題演習 解説</li> <li>6. 過去問題演習 解説</li> <li>7. 予想問題Ⅰ演習 解説</li> <li>8. 予想問題Ⅱ演習 解説</li> <li>9. 予想問題Ⅲ演習 解説</li> <li>10. 仕上問題演習 解説</li> </ol>								
テキスト	合格するための過去問題集 日商簿記3級 TAC 出版								
評価方法及び基準	授業態度及び出席状況 70% 検定成績 30%								
資格試験	日本商工会議所主催 日商簿記検定試験 3級								
関連科目	商業簿記Ⅰ、商業簿記Ⅱ								

## 商業実務課程 国際ビジネス本科 カレッジコース(2年制) シラバス

分類	必修	科目名	商業簿記Ⅱ	担当者	結城 将光	授業 時数	60	配当 年次	1年 後期
実務教員	○	実務教員の紹介	日商簿記検定1級合格を取得し、税理士事務所で、事業所に対して日々の帳簿作成の指導及び税務相談を行ってきた。						
卒業要件との関連									
授業の到達目標	株式会社等で必要とされる有価証券の取引、資本金の処理、本支店会計についての学習を行うことで、中小企業において必要とされる基本的な知識の習得を目標とする。								
授業概要	日商簿記3級の範囲の振り返りを行った後、2級にて新たに範囲となる発展的内容についての知識習得を練習問題含めて行う。								
授業計画及び時間外学習(時間)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 株式の発行、剰余金の配当と処分Ⅰ</li> <li>2. 株式の発行、剰余金の配当と処分Ⅱ 合併と無形固定資産</li> <li>3. 法人税塔と消費税</li> <li>4. 商品売買等</li> <li>5. 手形と電子記録債権(債務)Ⅰ</li> <li>6. 手形と電子記録債権(債務)Ⅱ 銀行勘定調整表</li> <li>7. 固定資産Ⅰ</li> <li>8. 固定資産Ⅱ</li> <li>9. 固定資産Ⅲ</li> <li>10. リース取引 研究開発費とソフトウェア</li> <li>11. 有価証券Ⅰ</li> <li>12. 有価証券Ⅱ</li> <li>13. 引当金Ⅰ</li> <li>14. 引当金Ⅱ</li> <li>15. 外貨換算会計</li> <li>16. 税効果会計 伝票と仕訳日計表</li> <li>17. 精算表と財務諸表</li> <li>18. 帳簿の締め切り 本支店会計</li> <li>19. 連結会計Ⅰ</li> <li>20. 連結会計Ⅱ 小テスト</li> </ol>								
テキスト	スッキリわかる 商業簿記2級 TAC出版								
評価方法及び基準	授業態度及び出席状況 70% 小テスト 30%								
資格試験	日本商工会議所主催 日商簿記検定試験 2級								
関連科目	商業簿記Ⅰ、工業簿記、簿記演習Ⅰ、簿記演習Ⅱ								

## 商業実務課程 国際ビジネス本科 カレッジコース(2年制) シラバス

分類	必修	科目名	工業簿記	担当者	結城 将光	授業 時数	60	配当 年次	1年 後期
実務教員	○	実務教員の紹介	日商簿記検定1級合格を取得し、税理士事務所で、事業所に対して日々の帳簿作成の指導及び税務相談を行ってきた。						
卒業要件との関連									
授業の到達目標	工業簿記の基本的内容である原価計算を元に、中小規模企業の工場会計において必要となる仕訳能力、原価計算能力、本社工場の処理能力を習得することを目標とする。								
授業概要	工業簿記において必要となる項目の分類（材料、賃金、経費）についての学習を行い、基礎となる知識習得を図る。その後、原価計算（個別、総合、標準、直接）の処理について学習を進めていく。								
授業計画及び時間外学習(時間)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 工業簿記の基礎</li> <li>2. 材料費</li> <li>3. 労務費</li> <li>4. 経費</li> <li>5. 個別原価計算Ⅰ</li> <li>6. 個別原価計算Ⅱ</li> <li>7. 部門別個別原価計算Ⅰ</li> <li>8. 部門別個別原価計算Ⅱ</li> <li>9. 総合原価計算Ⅰ</li> <li>10. 総合原価計算Ⅱ</li> <li>11. 総合原価計算Ⅲ</li> <li>12. 総合原価計算Ⅳ</li> <li>13. 総合原価計算Ⅴ</li> <li>14. 工業簿記における財務諸表</li> <li>15. 本社工場会計</li> <li>16. 標準原価計算Ⅰ</li> <li>17. 標準原価計算Ⅱ</li> <li>18. 直接原価計算Ⅰ</li> <li>19. 直接原価計算Ⅱ</li> <li>20. 小テスト</li> </ol>								
テキスト	スッキリわかる 工業簿記2級 TAC 出版								
評価方法及び基準	授業態度及び出席状況 70% 小テスト 30%								
資格試験	日本商工会議所主催 日商簿記検定試験 2級								
関連科目	商業簿記Ⅱ、簿記演習Ⅱ								

## 商業実務課程 国際ビジネス本科 カレッジコース(2年制) シラバス

分類	必修	科目名	ファイナンシャル プランニング講義	担当者	結城 将光	授業 時数	90	配当 年次	2年 後期
実務教員	○	実務教員の紹介	F P 2 級取得の知識を基に、損害保険外交業務及び不動産会社において、顧客の資金運用計画を作成した経験がある。						
卒業要件との関連									
授業の到達目標	顧客の資産に応じた貯蓄・投資等のプランの立案・相談に必要な技能の程度を習得します。								
授業概要	ライフプランニングに必要な資金計画、生命保険及び損害保険の知識を習得するリスクマネジメント、金融・経済の基本から債券や株式投資などを学ぶ金融資産運用、主に所得税の仕組みを学習するタックスプランニング、不動産の売買から不動産取引から生じる税金について学ぶ不動産、相続及び贈与について学ぶ相続・事業承継について学んでいく。								
授業計画及び時間外学習(時間)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. FP と倫理</li> <li>2. ライフプランニングの手法</li> <li>3. 社会保険</li> <li>4. 公的年金の全体像</li> <li>5. 企業年金等</li> <li>6. 年金と税金</li> <li>7. 生命保険と損害保険</li> <li>8. 金融・経済の基本</li> <li>9. 貯蓄型金融商品</li> <li>10. 債券・株式・投資信託</li> <li>11. 外貨建て金融商品</li> <li>12. 金融商品と税金</li> <li>13. 所得税の基本</li> <li>14. 各所得の計算・課税標準の計算と所得控除</li> <li>15. 税額の計算と税額控除</li> <li>16. 所得税の申告と納税</li> <li>17. 不動産の取引と不動産に関する法令</li> <li>18. 不動産の税金</li> <li>19. 不動産の有効活用</li> <li>20. 相続税と贈与税</li> <li>21. 財産の評価</li> </ol>								
テキスト	みんなが欲しかった！ FP の教科書 T A C 出版								
評価方法及び基準	授業態度及び出席状況 70% 検定成績 30%								
資格試験	金融財政事情研究会主催 ファイナンシャル・プランニング技能検定 3 級								
関連科目	金融業務能力検定、企業年金総合プランナー								

## 商業実務課程 国際ビジネス本科 カレッジコース(2年制) シラバス

分類	必修	科目名	ファイナンシャル プランニング演習	担当者	結城 将光	授業 時数	90	配当 年次	2年 後期
実務教員	○	実務教員の紹介	FP2級取得の知識を基に、損害保険外交業務及び不動産会社において、顧客の資金運用計画を作成した経験がある。						
卒業要件 との関連									
授業の 到達目標	ファイナンシャル・プランナーとしての知識を習得し、プランニングを行うに必要なライフイベント表やキャッシュフロー表、個人バランスシートの作成ができるように指導する。最終的には、ファイナンシャル・プランニング3級の合格を目指す。								
授業概要	オリジナル問題及び過去問を中心に問題演習をおこないます。演習ごとに個別論点を解説します。。また、予想問題を徹底的に行うことで合格を目指していきます。								
授業計画及び時間外学習(時間)	22. FPと倫理 テスト・解説 23. ライフプランニングの手法 テスト・解説 24. 社会保険 テスト・解説 25. 公的年金の全体像 テスト・解説 26. 企業年金等 テスト・解説 27. 年金と税金 テスト・解説 28. 生命保険と損害保険 テスト・解説 29. 金融・経済の基本 テスト・解説 30. 貯蓄型金融商品 テスト・解説 31. 債券・株式・投資信託 テスト・解説 32. 外貨建て金融商品 テスト・解説 33. 金融商品と税金 テスト・解説 34. 所得税の基本 テスト・解説 35. 各所得の計算・課税標準の計算と所得控除 テスト・解説 36. 税額の計算と税額控除 テスト・解説 37. 所得税の申告と納税 テスト・解説 38. 不動産の取引と不動産に関する法令 テスト・解説 39. 不動産の税金 テスト・解説 40. 不動産の有効活用 テスト・解説 41. 相続税と贈与税 テスト・解説 42. 財産の評価 テスト・解説								
テキスト	オリジナル問題使用								
評価方法 及び基準	授業態度及び出席状況 70% 検定成績 30%								
資格試験	金融財政事情研究会主催 ファイナンシャル・プランニング3級								
関連科目	金融業務能力検定、企業年金総合プランナー								

## 商業実務課程 国際ビジネス本科 カレッジコース(2年制) シラバス

分類	必修	科目名	企業研究Ⅰ	担当者	平得 永太郎	授業 時数	30	配当 年次	1年 後期
実務教員	○	実務教員の紹介	那覇新都心通り会（企業組合）にて18年間各業種の企業支援を行っている経験を踏まえて、企業研究の指導を行う。						
卒業要件との関連									
授業の到達目標	この授業においては、学生が関心を持った業種・企業を研究し、経営理念・事業内容を柱に経営状態や業績、取扱商品と顧客サービス、給与体系など業界内での企業の位置づけなどについて、多角的に企業を調べる。								
授業概要	経営学総論で学んだ専門知識を活かし、①沖縄県内企業について研究対象とする企業を選択。②対象企業へヒアリングを行い、体験的に学ぶ。③ディスカッションを行って他者との意見交換のスキルを学ぶ。以上3つを授業として行う								
授業計画及び時間外学習(時間)	第1回 ・沖縄県内企業についてリサーチ 第2回 ・研究対象企業を抽出し、事前調査項目を整理 第3回 ・研究対象企業の歴史（沿革） 第4回 ・研究対象企業の経営理念・事業内容をヒアリング 第5回 ・研究対象企業の取扱商品・顧客サービスについてヒアリング 第6回 ・研究対象企業の課題についてヒアリング 第7回 ・ヒアリング内容整理① 第8回 ・ヒアリング内容整理② 第9回 ・研究発表準備 第10回 ・研究発表								
テキスト									
評価方法及び基準	授業態度及び出席状況 70% 研究発表の内容 30%								
資格試験									
関連科目	経営学総論・経営管理論・生産管理論								

## 商業実務課程 国際ビジネス本科 カレッジコース(2年制) シラバス

分類	必修	科目名	小論文演習	担当者	平得 永太郎	授業 時数	30	配当 年次	2年 後期
実務教員	○	実務教員の紹介	コミュニティ新聞（毎月 8,000 部発刊）編集を 18 年間携わり、取材記事作成の経験より文書作成を指導。						
卒業要件との関連									
授業の到達目標	小論文を書く上で重要となる各テーマに対しての知識の引出しを蓄えることを目的に、構文力、読解力を身に付け、小論文を書く上で必要となるスキル修得を目標とする。								
授業概要	小論文を書く上でまず必要となるのは、感想文や報告文と論文は体系的に異なるものであることを理解することです。そのために論文をどのような構成で作成していくかを知識として身に付けていき、その上で各テーマどのように知識の引出しを得ていくかを学ぶ機会を設けていきます。								
授業計画及び時間外学習(時間)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小論文の構成</li> <li>2. 論文を書く上での注意事項</li> <li>3. 知識の引出しを得るためには</li> <li>4. 論文演習（課題型）</li> <li>5. 論文演習（課題型）</li> <li>6. 論文演習（課題型）</li> <li>7. 文章要約のポイント</li> <li>8. 論文演習（課題文型）</li> <li>9. 論文演習（課題文型）</li> <li>10. 論文演習（課題文型）</li> </ol>								
テキスト	特別にテキストは必要としない。プリント配布で対応する。								
評価方法及び基準	授業態度及び出席状況 40% 各演習課題の構成力を総合的に判断 60%								
資格試験									
関連科目									

## 商業実務課程 国際ビジネス本科 カレッジコース(2年制) シラバス

分類	必修	科目名	企業研究Ⅱ	担当者	平得 永太郎	授業 時数	30	配当 年次	2年 前期
実務教員	○	実務教員の紹介	那覇新都心通り会（企業組合）にて18年間各業種の企業支援を行っている経験を踏まえて、企業研究の指導を行う。						
卒業要件との関連									
授業の到達目標	この授業においては、企業研究Ⅰで研究したことを発展させ、企業課題をヒアリングして課題解決に向けたアクションプランを作成する。								
授業概要	①研究対象とする業種・企業を選択。②対象企業へヒアリングを行う。③アクションプランを作成し、プランニングスキルを学ぶ。以上3つを授業として行う								
授業計画及び時間外学習(時間)	第1回 ・ 沖縄県内企業・業種について調べる 第2回 ・ 研究対象企業を抽出し、事前調査項目を整理 第3回 ・ ヒアリング準備（調査項目を企業と調整） 第4回 ・ ヒアリング調査（企業における課題を聞く） 第5回 ・ 企業課題に対してのアプローチを学術的に調べる① 第6回 ・ 企業課題に対してのアプローチを学術的に調べる② 第7回 ・ アクションプラン作成① 第8回 ・ アクションプラン作成② 第9回 ・ 研究発表準備 第10回 ・ 研究発表								
テキスト									
評価方法及び基準	授業態度及び出席状況 70% 研究発表の内容 30%								
資格試験									
関連科目	経営学総論・経営管理論・生産管理論								

## 商業実務課程 国際ビジネス本科 カレッジコース(2年制) シラバス

分類	必修	科目名	コミュニティ研究	担当者	平得 永太郎	授業 時数	30	配当 年次	2年 後期
実務教員	○	実務教員の紹介	那覇新都心通り会理事兼事務局長、NPO法人沖縄県立美術館支援会 happ 理事を務め、地域課題解決に向けた取組を民間企業と行政と連携し取組んでいる。また、九州・山口地域づくり人材ネット（沖縄県）のアドバイザーとして登録。						
卒業要件との関連									
授業の到達目標	地域課題解決に向けた取組において、地域住民・民間企業・行政機関の連携は不可欠となります。授業で、地域課題の抽出の仕方を学び、地域住民・民間企業・行政機関の各役割を踏まえて、課題解決に向けた方策の立て方を学ぶ。								
授業概要	主としてグループワークによる授業となる。まず、身近な地域を対象に課題抽出をする。そこからフィールドワークを行い、現状を把握する。そして、様々な地域で行われている地域課題解決例を調べる。また、現に地域課題解決に向けた取組をしている地域団体から代表者を講師として招き、解決案のロジックモデルを学び、ワークショップ形式でアイデアをブラッシュアップ。最後にグループによる発表を行う。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回 社会的課題を学ぶ（貧困問題等） 2回 地域コミュニティ（自治会等）の取組を調べる 3回 民間企業による地域活動を調べる 4回 行政機関の地域課題解決に向けた取組を調べる。 5回 身近な地域の課題を抽出してみる。（フィールドワーク） 6回 抽出した課題をどう解決するかを模索する。 7回 地域自治会から代表者を講師として、地域課題への取組を学ぶ。 8回 民間企業から代表者を講師として、地域課題への取組を学ぶ。 9回 行政機関から地域課題解決に向けた取組を職員から学ぶ。 10回 課題解決に向けたアイデアをグループで集約（ワークショップ） 11回 課題解決に向けたアクションプランをつくる① 12回 課題解決に向けたアクションプランをつくる② 13回 アクションプラン発表準備 14回 アクションプラン発表①（質疑・応答） 15回 アクションプランの実現に向けたブラッシュアップ 16回 授業の振り返り								
テキスト	オリジナルテキスト 地域自治会、民間企業、NPO等の団体の発刊物。								
評価方法及び基準	グループワークの姿勢、課題解決に向けたアイデアの発表。 出席率 70% 研究発表 30%								
資格試験									
関連科目									

商業実務課程 国際ビジネス本科 カレッジコース(2年制) シラバス

分類	必修	科目名	自己表現技法	担当者	平得永太郎	授業 時数	30	配当 年次	2年 後期
実務教員	○	実務教員の紹介	8年間コミュニティFMにてパーソナリティーを務めていた経験を活かして、話し方・説明の仕方・伝え方を教え、一人ひとりの個性を生かした自己表現方法を身につける。						
卒業要件との関連									
授業の到達目標	2年間学んできたことを整理し、自分自身の持っている魅力を伝える表現方法を学び。好きな表現方法を使って、自分自身の魅力を発表する。								
授業概要	①自己分析。②表現方法を学ぶ。③みんなの前で表現する。								
授業計画及び時間外学習(時間)	第1回 ・自己分析(長所・短所・得意なこと・苦手なこと) 第2回 ・自分自身の(長所・短所・得意なこと・苦手なこと)を発表 第3回 ・表現方法①(発声練習・言葉の使い方) 第4回 ・表現方法②(話す・聞く・伝え方) 第5回 ・表現方法③(自己PRを作成・説明する) 第6回 ・表現方法④(会話を楽しむ。質問の仕方・応え方) 第7回 ・自己表現発表① 第8回 ・自己表現発表② 第9回 ・自己表現発表③ 第10回 ・ふりかえり								
テキスト									
評価方法及び基準	授業態度及び出席状況 70% 自己表現発表の内容 30%								
資格試験									
関連科目									